

法然上人のご法語 第十三 一 二行得失（後）

専修せんじゆの者は、皆生まるる事うを得るは、何なにの故ゆえぞ。

阿弥陀仏の本願に相應せるが故なり。釈迦如来の教ずいじゆんえに随順ずいじゆんせるが故なり。雑業ぞうじゆの者は生まるること少なきは、何の故ぞ。弥陀の本願たがに違える故なり。釈迦の教したがえに随したがわざる故なり。

念仏して浄土を求むる者は、二尊みこころの御心に深く適かなえり。雑修ざしゆをして浄土を求むる者は、二仏の御心に背そむけり。

善導かしよう和尚、二行の得失を判かぜること、これのみにあらず。観經かんぎやうの疏しよと申す文ふみの中に、多く得失を挙げたり。繁しげきが故いに出いださず。これをもて知るべし。

雑業、雑修 〓 雑行。念仏以外の様々な修行をして往生を願うこと。

四聖諦（四諦）^{ししようたい} 〓 四つの聖なる真理^{ししたい} 〓 仏教の根本教理

「苦」 人生は迷い、苦に満ちている。（この世は牢獄の「とこ」）

※ 五つの不安 〓 生活の不安・悪く言われる不安・人前に出たり偉い人の前に入る不安・病気や死への不安・悪道に堕ちる不安

「集」 苦は無知・執着などの要因が集まって生ずる。（牢獄は心より生ず）

「滅」 執着が滅すれば覚りに至る。（牢獄の外に出でよ）

「道」 覚りに至るための道。（牢獄の外に出る方法）

悪をとどめる、心を清める、苦・無常・無我・空を念ずる、念仏往生、唱題、坐禅、苦行、読経、礼拝、写経、巡礼、利他行など。



初轉法輪^{しよてんぽうりん}

釈尊が覚りを開かれたのち、鹿野苑^{ろくやおん}において初めて教え（法輪）を説く。